

パブリシティ

一般社団法人チカク 2009 年～2020 年

設立以来、たくさんのメディアに取り上げていただきました。
拙い話を聞き、上手にまとめてくださったみなさまに感謝申し上げます。



3 ページ以降にあげているのは新聞など紙媒体に掲載されたものです。

チカクのこと

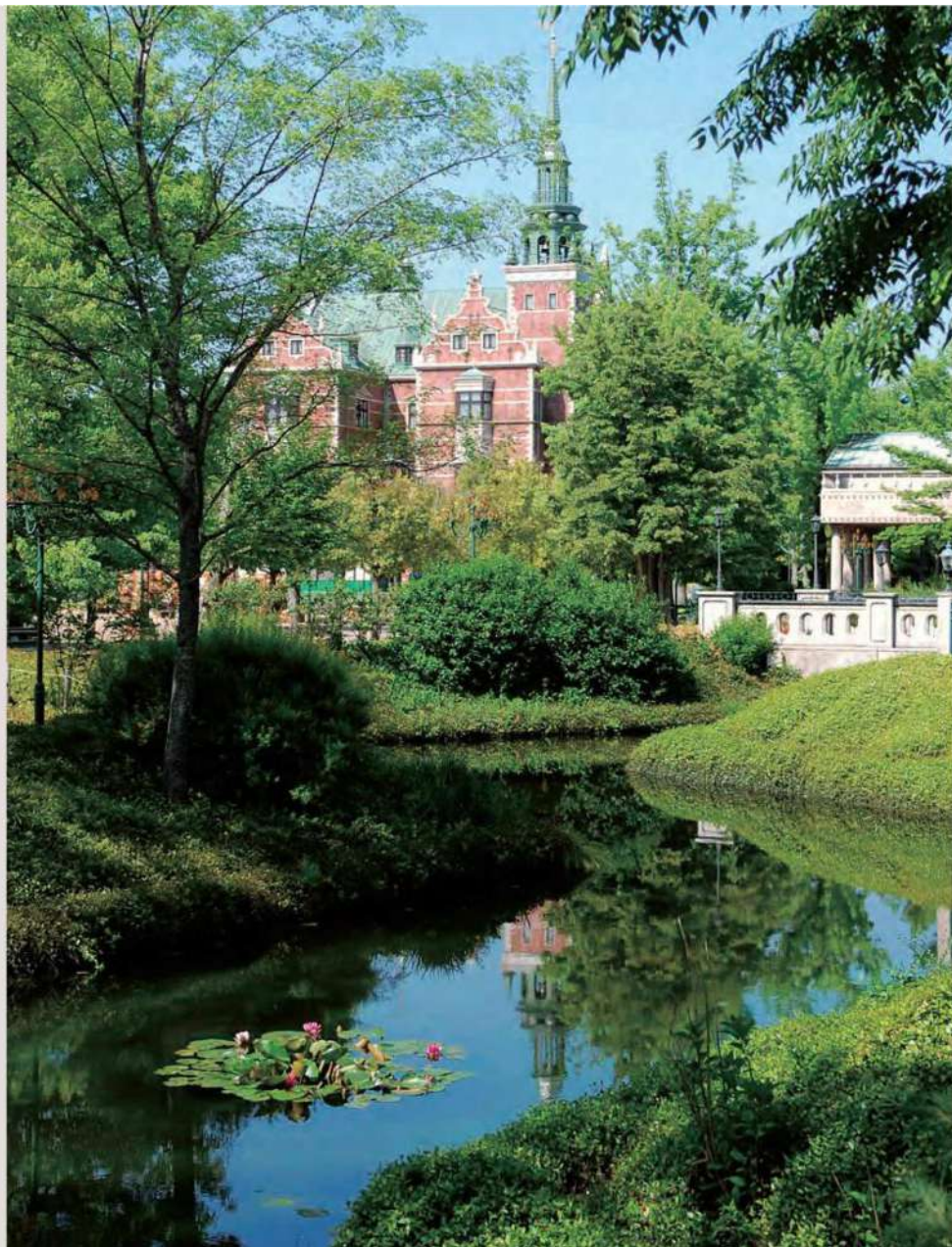
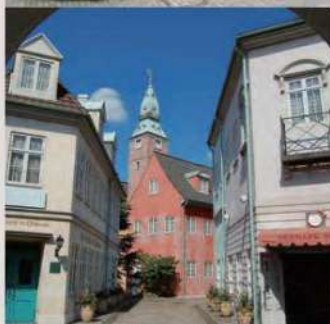
社 名： 一般社団法人チカク
設立年月日： 2008 年 12 月 26 日
所 在 地： 倉敷市茶屋町 269-1 植野ビル 2 階 〒710-1101（ちゃやっこひろば・チカク）
電話番号： 080-2900-8110（代表） 070-5050-7730（ひろば）
E-mail： ekinotikaku@gmail.com
代表理事： 赤木美子（090-2295-3420）
業務内容： 子育て支援、地域活性化のための企画提案・実施運営・情報発信事業

=====

一般社団法人チカク

■ HP | <http://www.ekinotikaku.com/>
■ Facebook | <https://www.facebook.com/tikaku.jp>
■ Blog | ilovit.seesaa.net
ようちえんごっこ プチぱれっと
■ <http://tikaku.sakura.ne.jp/palette/74>
ちゃやっこひろば・チカク
■ <https://www.facebook.com/Chayakko.tikaku>
■ ちゃやっこひろば通信 <http://goo.gl/Cw76K>
■ ママぱれっと
<http://www.mamapalette.kokage.cc/aboutus/>

子ども防災ネットワークおかやま
■ <https://www.facebook.com/kodomobousainet>
■ <http://www.kodomobousai.net/>
まちづくりびと@倉敷
■ <http://cllabo-2012.seesaa.net/>
■ <https://www.facebook.com/kurashikimachi>
こうきみんな食堂
■ <https://www.facebook.com/koukiminnashokudo/>
■ <http://minnashokudo.seesaa.net/>



チカクのこと

一般社団法人チカクは、倉敷駅前にあった倉敷チボリ公園の公益性の一部（地縁・血縁から程よく離れたコミュニティとしての存在と事業）を継承するために、閉園直前の2008年12月26日に、チボリで働く女性スタッフが設立した非営利型の一般社団法人です。チボリの閉園は当時500億以上の第三セクターの清算という尋常ならざる事態であり、仲間たちとやむにやまれず立ち上げ、その後、継続して活動していく中でさまざまな人と出会い、事業を積み上げてきました。

設立から一貫して、社会の中の大小さまざまな矛盾や不具合を批判、論評するだけでなく、当事者として身近な課題に取り組んでいきたいと私たちは考え、行動してきました。目指しているのは、乳幼児から10歳ぐらいまでの子どもとその親を含む、小さな「コミュニティ」を、さまざまな形で町なかに作り続けること。そこで、活動を通じて、自然災害が多い日本で未来を生きる子どもたちのために、「当事者意識」を持って取り組む「姿勢」の大切さを地域のみならず、皆さんにも伝えていきたいと思っています。

チボリで、私たちは町なかの森を育てていました。そしていまも森を育てるように人を育てる「志」をもって、事業を続けていこうと思っています。

2009年2月19日付の山陽新聞で、チカク設立が紹介されました。



チカクの歩み

「0歳児の発達支援に特化した地域拠点事業」を企画運営した一般社団法人チカクは、倉敷市を拠点に、これまで以下のようなさまざまな団体と連携して事業を行ってきました。

夏休み★宿題応援団

2004年8月～現在

チボリの中で行っていた夏休みの工作教室(写真①)を自主事業、倉敷市環境学習センター委託事業として継続。現在はコロナ禍のため休止。

ようちえんごっこプチぱれっと

2010年10月～現在

経済産業省の助成金を受けたNPO法人ぱれっと(高槻市)からノウハウ移転を受け、プレ幼稚園事業をスタート。現在も倉敷市・岡山市で毎年40名前後の2～3歳児を受け入れている(写真②)。またこの事業について中小企業大学校関西校で「公益性を目的とした起業の事例」としてNPO法人ぱれっと代表と報告を行った。(2018年、2020年)

子ども防災ネットワークおかやま

2011年11月～現在

東日本大震災をきっかけに当時の全労済岡山県推進本部および県内の子育て支援NPOとこどものための防災教育の推進を目的に設立(写真③)。以来現在に至るまで、96カ所、3,500人以上の乳幼児を中心としたこどもたちを対象に、防災体験プログラムの出前講座を行い、またSNSなどでこどもにまつわる防災情報の提供を行っている。

倉敷まちづくりびと展

2012年4月～2017年3月

倉敷市市民活動推進課からの委託で、市民協働提案事業の採択団体の活動紹介を商業施設のイベントとして企画。その準備から運営までの実際を各団体が体感する仕組みと、団体が細かく情報発信できる仕組みを構築した。このイベントの集客イベントとして、倉敷チボリ公園の人気ミュージカル「ハンスの冒険」※を「紙芝居オペレッタ」(写真④)などとして再演した。※ハンスの冒険は2011年3月に個人・法人などから支援を得て、チカクが事務局となり、劇場公演を果たしている。(写真⑤⑥)

ちゃやっこひろば・チカク

2012年10月～現在

倉敷市委託の地域子育て支援拠点事業。全国に6800カ所以上あり、倉敷市内では19カ所ある地域子育て支援拠点の一つ。茶屋町の駅前の100㎡の拠点で、平日10時から15時まで保育士など2名が常駐して0歳～3歳までの子とその親の支援を行う(写真⑦)。年間会員数243世帯、利用者数約6016人(2019年度実績)。写真は、地域支援として行うアラ40ママの子育てひろば(写真⑧)、茶屋町ふれあいクリスマス(写真⑨)。

高梁川流域地域づくり連携事業①

2017年7月～2018年3月

「こどもの防災を考えるくちやっこ・こっこプロジェクト」として防災体験プログラムの内容を総社市内の子育て支援拠点を運営するNPO法人子育て・応援こっこに技術移転。

岡輝みんな食堂

2017年10月～2018年3月

岡山市岡輝地区の福祉事業所、経営者などからなるグループのコミュニティ食堂の立ち上げ支援を行った。備前地域いきいき子どものくらし応援事業(支援基盤形成事業)。

真備臨時託児室

2018年7～8月

豪雨災害で保育所、支援センターが全滅した倉敷市真備地区で、地域子育て支援拠点の一員として、0～2歳児を対象とした託児室の運営をサポートした。

高梁川流域地域づくり連携事業②

2018年7月～2019年3月

「障がい児の保護者の居場所づくりノウハウ移転事業」として居場所づくりのノウハウ移転を、NPO法人ペアレント・サポートすてっぷから受けた。

0歳児の発達支援に特化した地域拠点事業～ママぱれっと

2018年4月～2021年3月

「0歳児の発達支援」に視点を持つ支援者の育成と居場所づくりを目的に、対象者ごとのプログラムを実施。助成最終年となる2020年度はさまざまな資金を活用しながら、オンラインカフェや動画の制作などにもチャレンジ。4年目以降も継続して実施できる体制に導いた。

ママと赤ちゃんの転がる時間「ダンプリングタイム」

2020年10月～現在

2019年10月、スカンジナビア・日本笹川財団の助成により、北欧の乳幼児の保育および支援施設を視察(写真⑩)。視察先の一つであったデンマーク・ポプルス社との連携により、0～1歳児向けの運動発達のプログラムを開始した。



チボリ文化引き継ぐぞ 元従業員・赤木さん 倉敷に「受け皿会社」設立 子ども向け催しや教室

チボリ文化引き継ぐぞ

元従業員・赤木さん 倉敷に「受け皿会社」設立

チボリの文化財産を次世代に……。昨年末で閉園した倉敷チボリ公園の元従業員赤木美子さん（西〇〇総社市泉〇〇）が、子ども向けイベントやカルチャー講座などのソフト事業を引き継ぐ受け皿会社「チカク」を倉敷市に設立。公園が担ってきた公益活動を継承し、市民の生きがい創出や子育て支援、市街地の活性化を目指す。

子ども向け 催しや教室

一般社団法人（非営利型）として昨年末に登録し、今月六日から市のインキュベーション（起業支援）施設「くらしきベンチャーオフィス」（同市阿知）に入居。スタッフは公園で業務経験がある女性を中心とした約十人で、社名には「駅や公園跡の近くで、チボリ精神の核を残したい」などの思いを込めた。



設立した「チカク」事務所でデスクワークをする赤木さん

現在は、天満屋倉敷「ダイア作りなど五教店六階・市男女共同参画推進センター（同所）の仕事を応援する体験で、公園で開講していた淡彩スケッチ画やアート

らと遊ぶ「チルドレンズ・アート・プロジェクト」といった公園で行われてきた期間限定イベントにも取り組む。

代表理事を務める赤木さんは、公園の元アシスタントマネージャー。閉園が決まった昨年八月以降、「ハードが無理ならせめてソフトだけでも守りたい」と受け皿組織の設立を決意。休日のたびに起業関連セミナーを聴講したり、行政や財界関係者に相談するなど培ったノウハウや人脈を駆使し、経営には素人ながら「公園の夢と感動を引き継ぐ舞台（赤木さん）を整えた。

第一弾イベントとして童話作家アンデルセンの誕生日（四月一日）に合わせ、JR倉敷駅北口橋上デッキで童話の読み聞かせ会などを

計画中。赤木さんは「閉園後に私たちができることを考えたかった。微力だけど倉敷を明るく元気にしたい」と話している。

同社ホームページ（HP）は「<http://www.ekinotikaku.com/>」。閉鎖した同公園の公式HPブログの一部も閲覧できる。

問い合わせは、赤木さん（080-2900-8110）。（大橋洋平）

2009. 2. 19
山陽新聞

2009/12/08

16:30～ KCT新春特別番組収録



KCTの新春座談会を収録しました。今回のテーマは「市民と築く魅力」。マービーミュージカル代表の井伊五郎さん、一般社団法人チカク代表理事の赤木美子さんとともに、倉敷の魅力や子どもに伝えたい文化、市民参加イベントの魅力、国民文化祭などについて、楽しくお話しをしています。収録した番組は、2010年のお正月に新春特別番組として放送されますので、どうぞ楽しみに！

元社員ら実行委 キャスト踏襲 5月、川崎で公演

チボリ人気ミュージカル

「ハンスの冒険」復活

チボリの人気者ハンスが帰ってくる。倉敷市寿町にあった倉敷チボリ公園で人気を集め、2008年末の閉園とともに封印されていたミュージカル「ハンスの冒険」が

復活する。製作・運営に携わった当時の関係者が実行委員会を設立。5月に川崎市で行うリバイバル公演に向け準備を進めている。（大橋洋平）

5月、川崎で公演



倉敷チボリ公園で人気を集めていたミュージカル「ハンスの冒険」の一場面（2007年1月）

キャスト踏襲

元社員ら
実行委

ハンスの冒険は1997年の開園時から上演されたオリジナル劇。経営再建策の一環で02年にいったん廃止されたが、根強い人気に支えられて再演を繰り返す。文化庁芸術祭賞などを受賞した横山由和氏の脚本・演出で第3作まで製作された。

閉園に伴い、著作権などの問題が絡むため、旧運営会社チボリ・ジャパン社は劇の封印を決め、衣装や小道具などを処分。しかし横山氏やチボリ元社員ら有志が「このままではもったいない。再び子どもたちに見てもらおう」と復活に向け奔走。2月上旬に製作実行委を立ち上げ、協議を重ねた。

今回のストーリーは、第1作を中心に再構成。少年ハンスがカエル王子のピビ

ン、王様アタのヒギーら愉快な仲間と繰り広げる冒険を、涙と笑いたったぷりに描く。ハンス役を清水田樹さん（岡山市出身）が務めるなどチボリ時代のキャストをほぼ踏襲した。

元チボリ社員で実行委メンバーの赤木美子・NPO法人チカク代表理事は「ハンスたちが子どもたちに元気と希望を与えてくれる。生まれ故郷・倉敷での公演もぜひ実現させたい」と話している。

公演は5月8、9の両日午前11時と午後2時、川崎市の昭和音楽大北校舎第1スタジオで開催。全席自由で大人2千円、4歳〜中学生千円。問い合わせは赤木代表理事（080-2900-8110）。

参考資料 | チボリのエンターテインメント（2000年7月9日）

山陽新聞 2000年(平成12年)7月9日 日曜日
文化 (14)

「新チボリの森の12ヶ月いのちめぐり」の一場面

伸びゆく地域文化の ぬくもりを感じる

月刊ミュージカル編集長 瀬川 昌久

倉敷チボリ公園では、デ意味で期待を裏切られるだて。物語は、少年ハンスが、チボリの伝統に。なう。本年度の二つのミュージカルは大都市の劇場でも見られぬ上質の作品が並んだ。毎日三、四回の公演を年間い作品が並んだ。毎日三、四回の公演を年間い作品が並んだ。

倉敷チボリ公園では、デ意味で期待を裏切られるだて。物語は、少年ハンスが、チボリの伝統に。なう。本年度の二つのミュージカルは大都市の劇場でも見られぬ上質の作品が並んだ。毎日三、四回の公演を年間い作品が並んだ。

倉敷チボリ公園では、デ意味で期待を裏切られるだて。物語は、少年ハンスが、チボリの伝統に。なう。本年度の二つのミュージカルは大都市の劇場でも見られぬ上質の作品が並んだ。毎日三、四回の公演を年間い作品が並んだ。

「新チボリの森の12ヶ月いのちめぐり」の一場面

倉敷チボリ公園のショー

大都市でも見られぬ上質さ

倉敷チボリ公園では、デ意味で期待を裏切られるだて。物語は、少年ハンスが、チボリの伝統に。なう。本年度の二つのミュージカルは大都市の劇場でも見られぬ上質の作品が並んだ。毎日三、四回の公演を年間い作品が並んだ。

倉敷チボリ公園では、デ意味で期待を裏切られるだて。物語は、少年ハンスが、チボリの伝統に。なう。本年度の二つのミュージカルは大都市の劇場でも見られぬ上質の作品が並んだ。毎日三、四回の公演を年間い作品が並んだ。

「東日本大震災支援基金」に112,822円、残り100,000円を、日本赤十字に寄付した。



「ハンスの冒険〜はなの王様編」

■日時 3/19 (土) 14:00 ~ 17:00 ~
 3/20 (日) 11:00 ~ 13:00 ~

■会場 豊島公園 3号館

■料金 200円(小学生以下1000円)

主役のハンス



「ハンスの冒険〜はなの王様編」は、ハンスの冒険の物語の一場面を描いたイラスト。ハンスは赤い帽子と青いコートを着用し、剣と盾を手にしている。背景には石の壁と木々が見える。

早くから防災意識を 子ども向けプログラム開発、普及 倉敷・チカクなど 岡山で明日セミナー

卵の殻踏み「がれき」体験 シーツで包帯作り

子育て支援事業などに取り組む一般社団法人チカク（倉敷市阿知）、全労済県本部（岡山市北区駅元町）などは、子ども向けの体験型防災教育プログラムの開発、普及に取り組

んでいる。11月に倉敷市の保育園でモデル授業を開催。その模様を収めたビデオを使って3日、防災教育セミナーを岡山市で開く。（大橋洋平）

早くから防災意識を

子ども向けプログラム開発、普及

プログラムは東日本大震災を教訓に、幼児期から災害への対応力を養うのが狙い。全労済県本部が社会貢献活動として企画し、チカク、NPO法人子ども



卵の殻を踏み「がれき」の危険性を学ぶ園児 11月、若竹の園

倉敷・チカク 岡山ですセミナー

国崎さんは「体験させることで災害時にま

保育園「若竹の園」で開かれたモデル授業は園児約50人が参加。シートに敷き詰めた卵の殻約200個分の上を恐る恐る歩き、「痛い」「足に刺さった」と声を上げた。国崎さんが「これがガラスだったら？」と問い掛けると、「危ない」「血だらけになる」。園生活で素足が多い幼児に、がれきの危険性を伝えた。破ったシートでの包帯づくり、頭を守る「ダンゴ虫のポーズ」にも挑戦。国崎さんの軽快な語り口で盛り上がりながら、園児たちは災害の恐ろしさや対策、周囲への気配りなどを学んだ。国崎さんは「体験させることで災害時にま

卵の殻踏み「がれき」体験／シートで包帯作り

ず体が動く。人格形成の鍵を握る幼児期だからこそ、こうした教育の効果は高い」と話す。

防災教育セミナーは3日午前10時から、岡山市北区駅元町のママカリフォーラムで開催。モデル授業のビデオを見て防災教育について考える。定員250人。無料。

セミナーで出た意見はプログラムに反映。チカク、子ども劇場のスタッフらが来年1月から、希望する保育園や幼稚園を巡り、プログラムに基づく授業を実演する。

チカクの赤木美子代表は「堅苦しすぎず、幼くても興味を持つ手法で、子どもたちに生きる知恵を教えたい」と話している。

問い合わせは全労済県本部（086-254-2155）。

27

岡山

2012年(平成24年)7月18日(水)

毎

日

新

ポスト・チボリ考

開園から15年

>上<

97年7月18日、JR倉敷駅北側に倉敷チボリ公園が開園した。県主導で官民合わせて600億円以上が投入されたが08年末に閉園。跡地には昨年、大型商業施設が開業し、同公園の面影はほとんど残らない。開園から15年。地元には、同公園から文化や公益性が「遺産」として引き継がれた。

【小林一彦】

かつて同公園内で上演されたオリジナルミュージカル「ハンスの冒険」が昨年3月、岡山市と倉敷市で復活上演された。モデルだったデンマークのチボリ公園を散策しながら構想を練ったと伝えられるアンデルセンの童話を基にした子供向け作品だが、公演は専門家にも「上質」と評判だった。計8回の舞台に延べ約2000人が集った。ミュージカル復活に尽力したのがチボリ・ジャパンの元従業員らでつくる一般社団法人「チカク」(赤木美子代表理事)。

文化や公益性

だ。

チカクはチボリ・カルチャー・クラブの略。「チボリの文化事業の受け皿を作りたい」と赤木代表が中心となって閉園直前に結成した。倉敷チボリ公園開園から閉園まで勤め、イベント企画なども担当した赤木さんは「巨額が投入されたチボリにかかわった者として、公園の公益性にこだわりたい」という。「子供たちの健全育成も重要な柱だった。『ハンスの冒険』に

かきたる防災教育や、子育て支援のイベントなども手掛ける。「子供たちの豊かな未来を育む事業はチボリの精神そのもの」。赤木代表は力を込める。

同公園が音楽を通じた子供たちの才能育成と鍛錬の場として運営したのが「チボリガード」だ。音楽の指導を受け、おそろいの赤いユニホームで園内をパレードし、人気が高かった。

関係者が「開園で失われる子供たちの行き場を残してほしい」と奔走し、音楽学部のあるくらしき作陽大学が引き受けた。チボリガードの活動

引き継がれた「遺産」

は本格的なエンターテインメントを子供たちに身近に感じてもらいたいとの願いがあった。

床に敷き詰めた卵の殻上を子供たちに裸足で歩かせることで「がれき」への想像力をから寄贈された。

JWAは小学生を中心に約30人。当初はチボリガード出身者が中心だったが、世代交代で今は数人。その一人であり、大准教授(65)は「音楽を通じて子供たちの育成の場は、チボリが残した大きな遺産だ」と話す。



学生たちの指導で練習に励むJWAの子供たち
＝倉敷市のくらしき作陽大学で

チカクが倉敷、岡山で保育サービス 子育て負担軽減、共育効果の両立 4月茶屋町に新教室

倉敷都市圏版

倉敷都市圏 2014年(平成26年)1月30日 木曜日

チカクが倉敷、岡山で保育サービス

一般社団法人チカク(倉敷市茶屋町)は、幼稚園に通う前の2～4歳児を預かる保育サービス「ようちえんごっこプチャれっと」を倉敷、岡山市で展開している。経験豊富な保育士が常駐し、幼稚園に近い環境で子どもたちの仲間作りや遊びをサポート。子育て負担の軽減と教育効果の両立を狙った取り組みで、4月には倉敷市に3カ所目となる拠点を新設する。

未就園児預かります

子育て負担軽減 教育効果の両立 4月茶屋町に新教室

チカクは、同サービス1教室を構成し、子育て負担軽減と教育効果の両立を考えたNPOとして、倉敷市茶屋町に3カ所を配置。給食やと提携し、倉敷市茶屋町などを用いた遊びや運動室を開設。会員制(有)料で、週1～2回、午前9時半～午後0時半。幼児を通常で預かる市などの21人が利用し、倉敷教室に通う岡山教室も岡山市北



幼稚園に近い環境を整えた「ようちえんごっこプチャれっと」の倉敷教室

「子ども同士に触れ合えるのは、コミュニケーション力を育む。就園前の子どもは親と家の中にいることが多いので、サービスを活用してほしい」と話している。問い合わせは赤木代表理事(080-1290-8110)。(鳥越謙一)

チカクの地域支援事業「アラフォーママの子育て広場」(山陽新聞 2012年7月12日)

チカクが倉敷で来月から開催 アラフォーママ「子育て広場」友達作りに利用して

チカクが倉敷で来月から開催

子育て支援などに取り組む一般社団法人チカク(倉敷市阿知)は、30代後半から40代前半で乳幼児のいる「アラフォーママ」を対象にした交流イベント「子育て広場」を岡山市内で開く。8月からは来月2月まで計20回予定しており、同世代の「ママ友」づくりや育児の悩み相談の場として利用してもらう。(大橋洋平)

アラフォーママ 子育て広場

晩婚などに伴う出産の遅れ、高年齢化を受けて企画。一般的に子育て広場は若い母親が多く、なじみない経験的に実施。2日の見聞という人たちの支援が狙い。岡山市民企画提案事業(協働部門)にも採択されている。岡山市によると、母親の世代を限定した子育て広場の継続開催は市内で初めて。2009年に市内で出産した4634人のうち、35歳以上は863人(18.6%)。統計を取り始めた01年は487



継続開催を前に、試験的に実施された「アラフォーママ」向けの子育て広場=2日

「アラフォーママは仕事もちやで子どもと遊んで、悩みや価値観で共通する部分があるはず。気軽に参加してほしい」と話している。毎回午前9時半～11時半。無料。予約不要。問い合わせはチカク(070-5050-1773)。(鳥越謙一)

倉敷・茶屋町 民家活用、子育てスペース誕生 自宅感覚気軽に交流

27

岡山都市圏

2012年(平成24年)10月30日 火曜日

三

Page

柔斤

乃凡

岡山都市圏版



新米パパ、ママいらっ
やい。倉敷市茶屋町に新
たな子育てスペース「ちや
やっこひろば・チカク」が誕
生した。民家をそのまま利
用したスタイルで、自宅や
知人宅の感覚で交流できる
場としてにぎわっている。

子育てスペースは、地域
と親子を結び付ける市の事
業で、市内6カ所目。一般
社団法人チカク（倉敷市）
が委託を受けて今年開設し
た。主に3歳までの乳幼児
と保護者が対象。子育て経
験のある保育士が常駐して
いる。

室内には、スタッフが選
んだ絵本や積み木、ぬいぐ
るみなどを用意。一緒に歌
を歌ったり、絵本の読み聞
かせを行うほか、昼食時は
持参した弁当を全員で広

自宅感覚 気軽に交流

子ども・学園@岡山・倉敷

げ、参加者同士で情報交換する。

長男大和君(一)と訪ねた主婦宮川りかさん

32 同所は「家の引っ越しは、これで知り合いも少ないので、ぜひまた来た」と笑顔を見せた。チカクの赤木美子代表は「子育てのちょっとした息抜きに遊びに来て。小さな悩み事も気軽に相談してほしい」と話している。

開館日は月・火・金・土曜の午前9時半～午後2時半と、水曜の正午～午後5時。出入り自由。予約不要で無料だが、初回のみ本年度の登録保険料5000円が必要となる。

誕生日会や「アラフォー・ーマ」対象といったイベントも随時開催。今後季節の行事や育児講座、ベビーマッサージなども取り入れる。問い合わせはひびこば(070-770-0500-7760)。

【右】民家を利用した「ちや
やっこひろば・チカク」【左
親と一緒に夢中でおもちやで
遊ぶ子どもら

倉敷・茶屋町 民家活用、子育てスペース誕生



気軽に利用できる親子の居場所「ちゃやっこひろば・チカク」（リビング新聞 2014 年 4 月 26 日）

LIVING

気軽に利用できる親子の居場所

ママも子どもも



ママ同士の距離が近い
アットホームな雰囲気が魅力
ちゃやっこひろば・チカク

【開催日】月・火・金曜＝9:30～14:30 水・木曜＝12:00～17:00
 【開催場所】金魚作楽部 303-42
 【問い合わせ】番 570 3506 7730 <http://www.shinkobaku.com/>
 【利用料金】無料（年間登録費 500 円）一部のイベントは予約と参加費あり

田村太一さんと田村麻衣さん(当時10歳)

保育園や児童館と併設された子育て支援拠点が多い中、こちらの「ちゃっぴこびほ」でもアットホームな雰囲気に3歳児の利用が多いという西さんの口元。「1カ月で歯が生えてきてくれる？」と、人懐っこく笑顔に。



初めて来たママもすっくと駆け込める
ゆかたの部屋



信頼できるスタッフがサポート

子育て中のママと子どもと一緒に遊んだりくつろいだりできる公共の場所として利用が増えてきているという「ももっこステーション」や「地域子育て拠点施設」をご存じですか。いったいどんな雰囲気やどんなことが行われているのか、2つの施設に足を運んでみました。

© 2000 Blackwell Science Ltd
Journal of Internal Medicine 247: 115-121



開催時間内ならいつ行ってもOK

「もちろんごステーション」
（環境省有資格者養成施設）は、乳幼児とその保護者は、気兼ねなく訪れてくつろいだり、相互に交流したり、子育て相談ができる場所。地下に168カ所あり。

超々やすいスタッフが常駐し、子育てに関するアドバイスももらえる。周年の恒例お祭さん、お誕生日のお友さんへお贈りするおもちゃやカードなどもあり。

まっかけの堀河にもなっている。岡山市内には49カ所、倉敷市内には11カ所、笠岡市では6カ所、また多くの児童館で予約なしで利用可能。開催時間内ならいつでも行っても大丈夫。

「地域子育て支援センター」として保育所で開館しているところも多く、各施設で独自のプログラムが展開されている。

開催時間内ならいつ行っても帰ってもOK

2014-4-26 日 14:16

リビング
おがやま

● 岡山県立岡山第一高等学校
〒760-0001 岡山県岡山市東区南長瀬1-1-1
TEL 086-221-2211 FAX 086-221-2215

岡山朝日125 4年連続

新年度セミナー （申込受付中）
能開センター
本館：東京都・品川区にある子育て支援センター（品川区立総合センター）
0120-047-052
お問い合わせ： 03-3552-1111 検索： <http://noka.jp>

『アヒンガあかやま』は、毎週土曜日19時30分・31分（毎日配付）でお届けしていますが、10月31日は秋の
ながらお休みさせていただきます。戻って次週11月
10月16日（日）・17日（月）配付となります。ご了承ください。



チボリの経験 子らのために

元スタッフの女性らが社団法人

2008年12月31日、倉敷市のテーマパーク「倉敷チボリ公園」が経営難で閉園した。その5日前、園のイベント企画や植栽などを担当していた女性スタッフ数人が一般社団法人「チカク」を立ち上げた。園で学んだ接客などの経験を地域のために役立てようと、子どもを対象にした保育や防災の教室を活発に開き続けている。



「うたのおねえさん」として活動する清水由樹さん（右）＝倉敷市茶屋町

ハンスの冒険→うたのおねえさん

チカクは「チボリ公園」の略称で、代表理事は、園でカルチャー教室担当だった赤木美子さん。現在、スタッフは保育士8人を含む14人にまで増えた。

清水由樹さん（34）は、チボリの名物公演だったアンデルセン劇「ハンスの冒険」で主演だった。今はチカクが開いている地域子育て支援センター「ちやっこひろば・チカク」（倉敷市茶屋町）の「うたのおねえさん」だ。

センターは0～3歳までの乳幼児と保護者が対象。童謡、手遊び、簡単な体操などを楽しんでもらう。保育士の資格をもつスタッフも常駐しており、1時間300円から託児も受け付けている。

4月24日は母子3組が参加した。清水さんは電子ピアノを弾きながら歌い、子どもたちはリズムに合わせて体を揺らし、上機嫌だった。11カ月の長男と参加し

花木ツアーガイド→防災出前講座

た女性（32）は「一家にいとずつと子どもと二人っきりで、何をしようかと悩む。ここに来ると子どもも楽しそうだし、何より私も息抜きができる」と顔をほころばせた。

チカクは、ちやっこひろば以外にも、幼稚園入園を控えた子どもが対象の「プレ幼稚園」も4教室運営している。東日本大震災が起こった11年からは「震災の教訓を子どもたちに伝えたい」と防災をテーマにした出前講座にも力を入れている。

「へらへらつと地震が来たら、頭を守ろう。ダンゴムシのポーズだよ」

倉敷市広江5丁目の弘恵保育園で4月21日、チカク

の防災教室があった。先生役は防災士の資格がある三村芳恵さん。チボリ時代は園の植栽を担当し、園内の花木を紹介するツアーガイドも務めていた。優しい語り口で災害への対処法を説いた。「チボリで働かせてもらったので話すのは得意。少しでも役立つことを教えてあげられたら」

チボリ閉園から6年が過ぎた。赤木さんは「雨の日も風の日も、私たちは来園者を笑顔で迎えてきた。チボリはもうないけれど、そこで育まれた地域貢献の精神を守り続けている私たちの姿が、みなさんの励みになればうれしい」と話している。

（長谷川健）



自然災害への対処法を絵本で伝えるチカクの三村芳恵さん（左）と赤木美子さん＝倉敷市広江5丁目

25日までアリオ倉敷

ミュージカル「ハンスの冒険」の復活上演を楽しむ親子連れ



また会えたねー。2008年
末閉園の倉敷チボリ公園で
生まれ、親しまれていたミ
ュージカル「ハンスの冒険」
が、元スタッフの手で「復

活」。22日から、公園跡地
の商業施設「アリオ倉敷」
（倉敷市寿町）で始まった
催しで上演されている。

（角南邦彦）

元スタッフ 要望受け上演

ハンスの冒険はアン
デルセン童話をモチー
フとし、1997年の
開園時に誕生。母を探
す少年ハンス、カエル、
ブタの王様による冒険
を通し、友情や勇気の
大切さを描き、公園の
目玉の一つだった。
閉園後は県内では2
011年に岡山、倉敷
22日は3人で上演。
市で各2日間演じら
れたのみ。再上演を
望む声を受け、元従
業員らでつくる社団
「チカク」（倉敷催
の期間中に正午と午
後2時半から上演。同
展では市民による地域
づくり活動を紹介する
パネル展示などもあ
る。



倉敷チボリ公園時代と同様に躍動感あふれる
ステージ

親子連れら100人以
上が集い、ハンスが元
気いっぱい登場する
と、大きな拍手で迎え
た。チボリ時代同様に
躍動感たっぷりの舞台
を披露。ファンだった
という倉敷市西阿知町
の主婦森尾百里子さん
（44）は「感動した」と
笑顔を見せた。

チカクの赤木美子代
表理事は「多くの人に
喜んでもらえ、作品の
素晴らしさを再認識し
た」とし、不定期でも
上演の継続を考えてい
る。

旧チボリの人気ミュージカル 「ハンスの冒険」復活

朝日新聞

岡山

平成

1997

第3種郵便物認可

倉敷チボリ公園オープン 1997年

1997年7月18日、JR倉敷駅北側に、デンマーク・チボリ公園の雰囲気を取り入れたテーマパーク「倉敷チボリ公園」がオープンした。クラボウ工場の跡地12畝に474億円をかけて建設。県出資の第三セクター「チボリ・ジャパン」が運営した。当初3年間は予想を上回る入

園者を集めたが、その後は伸び悩んだ。累積赤字は143億円まで膨らみ、2008年の大みそかに閉園。11年間の累積入園者数は1810万6852人だった。跡地には11年、「倉敷みらい公園」、大型ショッピングセンター「アリオ倉敷」、「三井アウトレットパーク倉敷」が相次いで出来た。

入り口前に設置した高さ20センチのからくり時計。今も動いている



約8万個の電球で浮かび上がった閉園当日の倉敷チボリ公園。1997年7月18日、いずれも倉敷市寿町、本社へから



戦後 70 年 岡山の歩み

平成編③

赤字膨らみ 11年で幕

赤木美子さん(55)＝倉敷市茶屋町

東京生まれで、妹が東京デイズニールランド開業当時のスタッフだったんです。

私が総社市に嫁ぐことになったとき、「岡山にはチボリ公園ができるからいいね」と言われて楽しみにしてました。こちらに来てフリーライターをしていたとき、町

でチボリのアルバイトスタッフ募集の貼り紙を見つけたんです。すぐに電話したら、パートアルバイト番号1番で採用されました。

最初は、アンデルセンやバイキングをモチーフにしたミュージカルなど劇場の出し物を考えるエンターテインメント担当でした。絶叫系のアトラクションはあ

りませんでしたし、お客さんの中には「ミュージカルって何なの？」というお年寄りもいました。でも、大観覧車「チボリバルーン」は人気でしたし、日本では珍しい北欧料理のレストランもありました。

その後、セレモニーの台本なども担当するようになってイベント企画室の正社員に。ミレニアムイベントを取りまとめ、園内でのカ



チボリ公園の名物だったミュージカル「ハンスの冒険」の出演者。2000年、チカク提供

10年早すぎた発想

森川政典さん(54)＝岡山市南区浦安西町

チボリ公園はもと岡山市が、市制百周年記念に誘致しようとしたもので

す。当時、私は民放テレビの関連会社から出向して岡山市の記念事業のひとつのミュージカルを手伝って

ました。そんな縁でチボリ誘致プロジェクトの秘書

ルチャー教室や広報宣伝も担当しました。閉園の時はアシスタントマネジャーでした。閉園を知ったとき

は、悲しみよりも「こんないい公園を次世代に残さなくていいのか」という怒りの方が大きかった。

私にとってチボリは地域社会に対する目を開かせてくれた存在。「閉園という

廃虚の中から立ち上がった、楽しみながら社会に貢献できる事業を続けていか

なくては。チボリが生きていくうちに、その灯を受け継ぎたい」。そう思って、

閉園5日前の08年12月26日、一般社団法人「チカク」を設立しました。チカクは「チボリ公園のカルチャークラブ」の略。あれから7年。保育士さんらと子育て支援や防災の教室を開いているほか、チボリの名物だったミュージカル「ハンスの冒険」も再演しています。

閉園後は縁あって大原美術館で業務担当マネジャーをしています。美術館で子どもたちは何かを感じ、学びます。そこに新しい物語が生まれる。大原美術館は、そんなオンラインワンの場所です。チボリもそうでした。商業施設は雇用は生むけど、オンラインワンの場所ではない。あの場所から生まれる物語がなくなったのが残念です。(三浦宏)

次は28日付で「国内初の生体肺移植に成功」を紹介し

第3種郵便 2016年(平成28年)6月7日 火曜日 倉敷・総社

24

地域の輪で子育てを

倉敷・茶屋町地区社協 9日、初の交流イベント



イベントの打ち合わせをする参加団体の代表者ら
2日、茶屋町公民館

倉敷市茶屋町地区社会福祉協議会は9日、子育て世代向けのイベント「茶屋町ウエルカムパーティー」を開く。若い母親らが家庭に閉じこもることなく、地域の輪の中で子どもをばっこんでいけるように、と初めて企画。近隣の子育て支援団体を紹介するとともに、参加者同士の交流を通じて、悩みなどを気軽に語り合える仲間を見つけてもらう。(仁井名小百合)

茶屋町地区の人口は3人増加。茶屋町小学校の

月末現在1万6351人 児童数は5月現在131 町内会や民生委員、愛育委員などで2015年

に発足した茶屋町地区社協は、他地域から移住してきたといった理由で、身近に相談相手が少ない、孤立しがちな状態で子育てしている住民もいると考え、イベントを立案した。

当日は「ちゃやっこひろば・チカク」(同市茶屋町)、「親子クラブ」(若竹会) (同)、「あまき子育て支援センター」(同市藤戸町天城)など、子どもと保護者の集いの場や育児支援拠点を運営している8団体の活動を紹介。倉敷自然育児相談所「べらん♡ま」(同市浦田)の村口裕美所長が、子どもとの関わり方について話す。子ども連れで楽しんで

近隣支援団体紹介や語り合える仲間作り

午前9時40分正午。入場無料で申し込み不要。問い合わせは平田さん(090-8608-6938)。



茶屋町ウエルカムパーティーのちらし

一般社団法人チカクは、2016年4月の茶屋町社会福祉協議会の設立と同時に子育て支援部会の一員となり、年三回の子育て支援部会のイベントの企画立案および広報宣伝活動を行い、地域子育て支援拠点として「地域支援」を積極的に行っています。

「茶屋町ウエルカムパーティー」は毎年5-6月、ひろばや親子クラブに参加できない、あるいは存在を知らない、小さな子供のいる親子が参加しやすいように、また、地域の子育て支援団体が一堂に会する場として、企画しました。9月には磯崎眠亀記念館で行われる三世代交流型の「ちびっこミンキ祭」、12月に「茶屋町ふれあいクリスマス」を実施しています。

子育てに悩むママを応援する「チカク」ってどんな団体？



▲0～3歳児とその保護者が気軽に集まれる場所として誕生した「ちゃやっこひろば」



「子育てに悩みはつきもの」とは言うものの、不安や心配を抱えるパパ・ママも多いはず。そこで、悩みを軽減し、楽しく子育てできるように、子育て支援団体から育児についてアドバイスをいただきました！

子育てに悩むママを応援する「チカク」ってどんな団体？

お話を聞いたのは……
「一般社団法人チカク」 赤木美子さん

私が子育て支援活動を始めたきっかけは、「倉敷チボリ公園」での勤務です。小学校低学年の子どもの向けのイベント事業に関わっていたので、楽しく遊ぶ親子の姿を常に見ていました。しかし、同園が閉園することになり、こういった親子の憩いの場がなくなることを残念に思い、「一般社団法人チカク」を立ち上げました。

チカクでは、幼稚園に入る前の2～4歳の子どもの週1～2回お預かりする「ようちえんごっこ」 プチぱれっとや、0～3歳の子どもの保護者が安心して集まれる広場「ちゃやっこひろば」を運営しています。子育てを応援する活動の一つとして、工作や外遊びなど、親子で楽しめる子育てイベントも開催しています。地域のコミュニティの中で様々な年代の人間と触れ合うことで、子どもはたくさん学ぶことができ、吸収していきます。イベントを通して、様々な人に出会える活動を知って欲しいと思っています。もし、一人で辛そうだったり、助けが欲しいようなママを見つけたら「こういう場もあるんだよ、もっと周りを頼って良いんだよ」と教えてあげてください。誰かに話せば、きっと気持ちも楽になるはずです。

子育ての不安や悩みを忘れてホッとひと息、付ける場所。

イベントは誰でも参加できるワークショップ系だけではなく、幼稚園児を対象に子ども向けの防災体験プログラムも実施しています。瓦礫に見立てた卵のカラの上を歩いてみたり、ジャッキを使って人を救出したり、シートで包帯を作ったりと、どれもすごく実践的なアイデアばかりです。4月に起きた九州地方の大地震のように、岡山でもいつか大地震が起こるかもしれない。その時に自分の命を守るように、ただ地震の怖さを教えるのではなく、自分の命を守ることがすごく大切なんだ、ということを感じてもらいためにしています。

親戚の家、仲良しのおばあちゃんの家のような感覚で「ちゃやっこひろば」に遊びに来てください。保育士だけでなく、自身も子育て中のスタッフ、他の利用者のママなど、あなたの悩みを共有できる人がたくさん待っています。



一般社団法人チカク
赤木美子さん

あかぎよしこ「倉敷チボリ公園」に11年勤務後、「チカク」を設立。子どもが健やかに育つよう、地域の子育てをサポートしている。
<http://www.ekinotikaku.com/>



▲上／「チボリ公園」で人気を博したミュージカル「ハンスの冒険」の復活公演もチカクで手掛けた
下／真剣に防災体験に取り組む様子

donbla.
ドンブラっこ

CONTENTS 2016 June_August

イベント盛りだくさんの夏シーズン到来！ 海へ山へと遊びに出かけるのも良いけれど、この時期は子どもが体調を崩しやすいので、体調管理には十分気をつけよう。そんな気になる子どもの健康や子育てに役立つ情報などを、たっぷりご紹介いたします！

倉敷 チボリの人気ミュージカル

「ハンスの冒険」復活上演

2008年末に閉園した倉敷チボリ公園で人気を集めていたミュージカル「ハンスの冒険」が、同公園の元スタッフらによって10月、倉敷市内で「復活上演」される。出演者らは「子どもたちに笑顔を届けたい」と練習に励んでいる。（仁井名小百合）



古川さん（右）の指導を受けながら練習に励む出演者たち

ハンスの冒険は、アンデルセン童話をモチーフに、母を探す心優しいピュアな少年ハンスと仲間のカエル、ブタの王様らが旅をする物語。1997年の開園時から目玉の催しの一つとして、約4年間上演された。

復活公演は、市民団体のまちづくり活動を紹介する「倉敷まちづくりびと展」（倉敷市主催）の一環として、チボリ元社員らでつくる一般社団法人チカク（同市茶屋町）が企画。10月15～17日、チボリ公園跡地の商業施設「アリオ倉敷」（同市寿町）で予定しており、チカクの赤木美子代表理事＝総社市泉＝は「ハン

10月15～17日 「子どもに笑顔を」

スの冒険を地域で受け継いでいきたいという思いを形にする一歩」と言う。

7月にキャストのオーディションがあり、県内外からミュージカルや演劇を勉強している学生、経験者ら男女16人が応募。高校生から40代までの男性2人、女性5人を選んだ。

7人は「ハンス・ドラマティック・ソサエティ」として活動をスタートし、6日の初練習には演出補の古川恭子さん（45）＝和気町福富＝が振り付けなどを指導。それぞれが役になりきって、躍動感あふれる演技を繰り広げた。元劇団四季研究生の長谷川共洋さん（30）＝総社市三須＝は「演じられることにワクワクしている。和気あいあいとした雰囲気、僕たちなりのハンスを作り上げたい」と意気込んでいる。

元スタッフら企画

アンデルセン・ミュージカル「ハンスの冒険は」倉敷チボリ公園を訪れるこどもたちのために、脚本・音楽・衣装・キャラクター設定も含め、すべて、オリジナルで制作された、いわば、「日本発倉敷ブランド」のライブ・エンターテインメントです。

2016年、オーディションから生まれたチームを私たちは「ハンス・ドラマティック・ソサエティ」と名付けました。息遣いの聞こえるワクワクするエンターテインメントを、気軽に、もっと身近に楽しめるように…。地域のなかで、三世代が一緒に笑って楽しめる場所として、可愛がっていただけるように…。そんな願いを込めました。

夢はきっと叶うよ…。一般社団法人チカクはハンスのメッセージを伝えるために、これからも大切に活動が続けていきます。

發
言
台

熊本地震が4月に発生するまで、熊本県は安全な場所であり地震はないと多くの人が思っていた。岡山県も同様に、災害のなご安心な県だとよく聞かれました。震源でなくとも、阪神淡路大震災（1995年）の時のように、大きな揺れは必ずやってくる。近い将来、発生が予想される南海トラフ巨大地震では、県内でも最大震度6の揺れに見舞われると想定されています。大地震が起これば、消防と警察を含む行政機関も被災する。医師や看護師がけがをし、医療機関も機能しないかもしれない。災害直後は行政も何もできない可能性があり、支援はないと思つた方がいい。だからこそ、自助と共助が重要になる。

逃げることはかり考えがたが、まずは家を耐震化しなければ、逃げようにも逃げられない。柱や壁などの構造部材だけ

危機管理教育研究所代表 国崎 信江さん

「こどもに伝える防災教育」

でなく、非構造部材の耐震化も大切。建物を守られても、天井材を支えていたワイヤが切れて床に突き刺さり、窓ガラスが割れ、照明は落ちてくる。学校のような施設では、特に関心を持って考えてほしい。

熊本地震の際、被害が、地震が起きると、

からない。家具は約秒後から揺れ始め、秒で倒れる。人間は認めるまでに数感な生でも3秒はかかる。き残るには非常に厳しい時間であり、事前対策が全てといえる。

背が低い家具の方が安全と根付いている低い。今、子どもたちのためにできるのは、

び出し対策までして初めて安全。それが分かっているのに、やらないことで被害が起きてしまふのは悲しい。

私たち大人は災害国に暮らしながら、成長過程で学ぶ機会がなかったために防災意識が低い。今、子どもたちのためにできるのは、

なげ目の地と経路の安全を確認しないのか。毎年さまざまな教訓になる自然災害が発生しているのに、訓練にあまり反映されていない。

よう。人はイメーシしない行動はできない。イメーシを助けるのは教訓になる過去を知ることだ。



くにざき・のぶえ 危機管理アドバイザー。2008年に危機管理教育研究所（東京）を設立し、防災対策などを提唱。文部科学省の地震調査研究推進本部政策委員会の委員なども務める。横浜市出身。3児の母。

自分で考え行動する力を

が大きかった熊本県益 高かろうと低かろうと 事実をしっかり伝え
 城町で避難所運営が混 固定されていなければ 防災を生活に根付かせ
 乱した一つの理由に、 必ず動く。固定すれば いくことだ。

避難所に想定していた
施設が非構造部材の被
害で使えなくなつた
場合、園児や児童を登
下させる方法を見直し
たい。園児や児童を登
下させる方法を見直し
たい。

たことがある。使える避難所は過密になり、車中泊を余儀なくされる人も出た。

地震の発生から人が救くだけで効果があらなくなるまで時間はかかる。家具は固定から飛

無ければ滑り止めシーツが役立つ。ホームセンターや100円ショップなどで手に入り、落ち、窓ガラスが散

ツプなどで手に入り、落ち、窓ガラスが散

のよつに避難ができ

子どもたちには、そのイメージする力を育てることが大切。例えば、地震発生時に隠れる机は固定していないことが多いので、倒れることもある。その時自分でどう考えて行動できるかが重要になる。

平成 28 年度 高梁川流域地域づくり連携推進事業「幼児に対する防災体験プログラムの普及と保育者・支援者向け防災講演会（こどもの防災を考えるちゃやっこ・こっこプロジェクト）」の一環として行われた、一般向け講演会。

一般社団法人チカク(倉敷)が行う幼児向け防災体験プログラムは、2011 年に全労済と県内の NPO が立ち上げた「子ども防災ネットワークおかやま」の中心プログラムであり、この記事でお話いただいた、危機管理アドバイザーの国崎信江さんの監修を受けており、2017 年 1 月現在で 60 か所 2600 人以上のこどもたちが体験しているプログラムです。

災害が来たらこうしよう、という話ではなく、いつもと違う状況になった時に、自分で考え、自ら動くことのできるように、思いやりを持って自分の命も他社の命も大切にできるように…と考えられています。

人口減少、いかに立ち向かうか＝内外情勢調査会 パネリストとして代表の赤木が参加

iJAMP -時事通信社-

時事通信社 iJAMP
iJAMP記事

◎人口減少、いかに立ち向かうか＝内外情勢調査会で講演—伊原木岡山知事

17/02/17 07:58 NG032

岡山県の伊原木隆太知事は16日、岡山市内で開かれた内外情勢調査会で講演した。教育再生や産業振興と共に人口対策に重点を置いた2017年度予算案に触れ「将来のことと今必要なことのバランスを取っていきたい」と力を込めた。第2部では「人口減少に立ち向かう」をテーマに知事と地元有識者によるパネルディスカッションが行われ、首長、企業トップら約100人が出席した。

伊原木知事は講演で、県の社会保障関係費は毎年約30億円ずつ増加すると説明。「桁違いのスピードで（財政が）圧迫されていく」と危機感を示した。県内の人口問題については「今年だけでは大したことはないが10年後20年後に効いてくる」と将来を見据えた対策が必要との考えを示した。

パネルディスカッションには岡山大学地域総合研究センター長の三村聡氏、フジワラテクノアート藤原恵子社長、同県和気町の小西哲史総合政策監、チカク代表理事の赤木美子さんの4人が登壇。県の現状を踏まえ、人口減少問題における「自然増」と「社会増」へのアプローチをめぐる議論を交わした。

長年子育て支援に携わってきた赤木さんは自然増対策として、0歳児の保育支援に力を入れることを提案。「人でも初期投資が大事。女性・子どもの問題としてでなく成長戦略の第一歩」と訴えた。働きながら子育てをする女性社員が多い製造業のトップである藤原社長は「男性への意識改革が重要」と述べ、「仕事をしながら産んで育てることが苦痛でない」会社の雰囲気づくりが大事になると強調した。

伊原木知事は社会増対策のポイントに「住みやすさ、子育てしやすさ」を挙げた。小西総合政策監は教育に関心を持つ子育て世代を呼び込もうと、英語教育に力を入れ無料公営塾を導入している和気町の取り組みを紹介し、「特徴を生かすことが小規模自治体が生き残る策」と指摘した。三村センター長は岡山大学が実施している企業や地域などでの活動を授業に組み込む「実践型社会連携教育」で、携わった学生の県内就職率が伸びたことを紹介。「地方創生に魔法のつえはない。具体的に実績を積み上げていくしかない」と経験を基に語った。（了）



内外情勢調査会で講演する伊原木岡山県知事＝16日夜、岡山市内のホテル



内外情勢調査会で人口減少問題についてパネルディスカッションを行う（左から）伊原木岡山県知事、三村岡山大学地域総合研究センター長、藤原フジワラテクノアート代表取締役社長、小西和気町総合政策監、赤木一般社団法人チカク代表理事＝16日夜、岡山市内のホテル

今年は倉敷チボリ公園開園から20年「ハンスの冒険」ラインスタンプ 元スタッフら制作

Kurashiki Area

「ハンスの冒険」

■ 今年は倉敷チボリ公園開園から20年 ■

ラインスタンプ



おはよう



ありがとう



かぞい



またね



いまから はじまるよ



かならず みつかるぞ



おひさしやうまらな

今年が倉敷チボリ公園（1997〜2008年）の開園20周年に当たるとの合わせ、一般社団法人チカク（倉敷市茶屋町）は、同公園の人気イベントだったミュージカル「ハンスの冒険」の主人公ハンスをモチーフに、無料通信アプリ「LINE（ライン）」用スタンプを制作した。

元スタッフら制作

チカクは、倉敷チボリ公園の元スタッフらで2008年12月に設立。「ハンスの冒険」の再演など同公園のソフ事業を受け継ぐ活動のほか、子育て支援や市民活動のサポート事業などを行っている。

「ハンスの冒険」は、アンデルセン童話を基に制作した同公園オリジナルのミュージカル。少年ハンスがカエルやブタの王様と旅をする物語で、開園時から目玉催しの一つとして上演されていた。

「ハンスの冒険」は、アンデルセン童話を基に制作した同公園オリジナルのミュージカル。少年ハンスがカエルやブタの王様と旅をする物語で、開園時から目玉催しの一つとして上演されていた。

「ハンス」LINEスタンプ 20周年記念しリリース

チカク

倉敷チボリ公園で業務経験を持つ女性スタッフを中心に、子育て支援事業などに取り組む（一社）チカク（赤木美子代表理事）は、アンデルセンミュージカル「ハンスの冒険」のLINEスタンプをリリースした。

チボリ公園は1997年7月18日開園で、毎日上演していたハンスの冒険も20周年の節目を迎え「ハンスの仲間たちが近くにいることを思い出してもらおう」と記念グッズを計画。チカクが版權を所有するハンスの画像データを



活用し、「おはよう」「ありがとう」などのメッセージ入りスタンプを作製した。8バージョンで120円。「ハンスの冒険」スタンプ

チカクは、公園の開園後も倉敷市の委託事業などで簡易版ミュージカルの上演も手掛けており、来年の設立10周年に向け「ハンスの仲間たちのスタンプをはじめ、倉敷らしさも兼ね備えたグッズ展開を考えたい」（赤木代表理事）としている。

検討していくという。チカクの赤木美子代表（080-2900-8110）。（仁井名小百合）

表理事は「今もみんなのそばにいるよ、という思いで手掛けた。ファンには思い出して歌を口ずさんでもらえるものに仕上がったので、ぜひ使ってほしい」と話している。問い合わせはチカク（080-2900-8110）。（仁井名小百合）

2018/3/8(金)に放送された番組をもとに機関誌で紹介されたもの

2018 Hare Press vol.17

110

Q & A

小さなお子様を 子育て中のお父さん・お母さんへ 防災Q & A

2018年3月8日(金)に放送された
FM岡山防災特別番組『家族とわたしを守る！
わが家の防災』をもとに紹介していきます。

今回質問に答えてくれたのは

一般社団法人 チカク

代表理事 赤木美子さん

倉敷市地域子育て支援事業「ちゃっぴろば・チカク」の運営、
「子ども防災ネットワークおかやま」では幼稚園・保育園を中心に
幼児の防災体験プログラムを実施している赤木美子さん。「今は
子育てで手が一杯！でも手がかって目が離せない時期の子ども
だからこそ、もしもの時は守ってください！」とアドバイス。



防災士の視点で、
小さなお子様をお持ちの
保護者のみなさんへ、
アドバイスをしていきます♪

Q1. 地震の揺れが来た ときは、どうする？

まずは避難。1度に必要なものをすべて持ち出そうと
思わないで！まずは安全に避難することが第一。

ワンポイント
アドバイス

おむつなど、必要なものは大きくて頑丈なケース
に入れておく。必要だと思うものは、少しはな
れたところにある実家に預けるなどの工夫も。
全てを持ち出すのではなく、自宅をもうひとつ
の避難拠点として使えるようにしましょう。

Q2. 防災グッズを 準備するのは大変…

特別に何かを準備するのではなく、生活の中で、
使いながら回していきましょう。

ワンポイント
アドバイス

例えば、子どもの枕元に避難用の靴を準備
する際に、子どもが今使用している靴よりワ
ンサイズ大きな靴を準備すれば、大きく
なった時にそれを履くことができます。

Q3. 子供に防災を教える にはどうすれば？

「いつも、もしも」を想像させてあげましょう。そうすればお子様も、
防災とは何か？ということを理解しやすくなります。たとえば、「もし、
地震でいつもそこにある自動販売機が倒れたら？」「もし、救急車が
遅れなかったら？」など、身近なことで構いません。一度お子様に聞
いけてみてはいかがでしょうか。

子ども防災ネットワークおかやま(金労済岡山推進本部)
〒700-8569 岡山県岡山市北区駅前町6-26
営業時間/9:00~17:00(土曜・日曜・祝日を除く)
Tel/086-254-0995 Fax/086-254-2500

幼児が体験して学ぶ
防災体験プログラムを
行います！

Aさんファミリー

防災の備えを全くしていない。
3歳と0歳7か月のお子さんを抱
えるAさんファミリーのお話。
もし、「緊急地震速報が鳴ったら、
とりあえず子供を抱きかかえて外
に出ます。被災した後のおむつや
食料など、とても不安です…」

Q4. 若いお父さんと お母さんへの心構えは？

実際の人との繋がりを大切にしていきましょう。自分が安心でき
る人や拠点をさがしておくことも必要です。自分が本当に困って
いる時に、助けてくれる人は本当に心強い存在です。近所のつな
がりも大切に、普段から知り合いになっておきましょう。

Q5. 小さな子どもがいる家庭が 避難所で必要な物

乳幼児がいる家庭で
必要なもの

粉ミルク・ほ乳瓶・離乳食・スプーン・おむつ・清浄綿・
おんぶひも・バスタオルまたはベビー毛布・ガーゼなど

妊婦さんのいる家庭で
必要なもの

脱脂綿・ガーゼ・さらし・T字帯・清浄綿および新生児用品・
ティッシュ・ビニール風呂敷・母子健康手帳など

協力：岡山県危機管理課

エフエムおかやまで、防災についてお話。このご縁で、2019年4月から毎月第2木曜
日9時過ぎから「コドモノコト談話室」に出演することになりました。

おかくら

2018年(平成30年)8月18日 土曜日

山 陽 新 聞

岡山、早島で乳幼児保護者のサロン

育児不安取り除いて

乳幼児期から子どもの特性を知り育児に生かしてもらおうと企画。助産師が0歳児の保護者に子育ての助言をする「0歳さんの日」▽作業療法士が0、1歳児との遊び方を教える「赤ちゃんとおぼろ」▽40歳前後で出産した0、3歳児の親が対象の「アラ40ママのひろば」▽2、3歳児との関わり方を学ぶ「子リスのひろば」の4プログラムがある。

7月にスタートした「0歳さんの日」の初回は同市内の5組が参加。「岡山県出身」「この子は第1子」など、共通点を見つけて打ち解けた後、1人ずつ子育ての悩みを話した。

講師は倉敷市内で育児相談所を開いている助産師の村口裕美さん。「肌が弱いのが心配」との声には、肌が擦れるにくい服を着せてみて、「食事、遊ぶばかりして、ご飯を食べない」との悩みには「しっかり食べ物を食べさせてから口に入れる。食べ物に興味を示し、集中して食べられるようになるはず」とアドバイスした。

チャカクの赤木美子代表理事は「子育てをしていると、小さなことで迷ったり驚いたりしがち。専門家に聞いてもらい不安を取り除いてほしい」と話す。

会場は8月がミナモト建築工房1階「くらしのたね」(岡山市北区辰巳)、9月以降は「いかしの舎」(早島町早島)。

子育て支援などを手掛ける一般社団法人チカク(倉敷市茶屋町)は、乳幼児の保護者に育児相談や「ママ友」づくりをしてもらうサロン「ママぱれっと」を始めた。8月まで岡山市、9月～来年3月は早島町で開く。(小野祐香)

一般社団法人チカク 相談や「ママ友」づくり



0歳児の母親に向け育児のアドバイスをする村口さん(左) = 7月24日

平成30年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成 モデル事業

2018年7月～2019年3月に、月2～4回、岡山市や、早島町の会場で予定しています。午前中は、申し込みが必要なプログラム、午後からは自由に参加できる「居場所」です。



ママぱれっと
ママと赤ちゃんの居場所

赤ちゃんとの暮らし、いっしょに考えてみませんか？

ベテラン助産師・人気の作業療法士など、専門職と一緒に、ゆっくりのんびり、ママと赤ちゃんに寄り添う「居場所」です。

「ママぱれっと」について

「ママぱれっと」は、対象になる赤ちゃんやお母さんによって、プログラムがわかれています。

午前10～12時	0歳さんの日	赤ちゃんとおぼろ	アラ40ママのひろば	子リスのひろば
要申込	対象：0歳児	対象：0～1歳児	対象：0～3歳児 ★プレママ可	対象：2～3歳児 ★9月スタート

午後12～15時 申込不要

ぱれっとひろば 対象：0～3歳児 ★プレママ可

午前のプログラムの申込方法は、裏面の「参加方法」をご覧ください。
参加無料。初回のみ登録料500円が必要です。
「ママぱれっと」のホームページでもご覧いただけます。
ホームページ: <http://www.mamapalette.kokage.co>

【お問い合わせ】 ちゃやっひろば(平日9:30～15:00)
(TEL) 070-5050-7730 / (Email) ekinotikaku@gmail.com

参加無料

平成30年度 社会福祉振興助成 モデル事業「0歳児の発達支援に特化した地域拠点事業」について

この事業は、子育て支援の「生きづらさ」につながる「育ちにくさ・育てにくさ」の解消を目的とし、3歳児以下、特に0歳児の発達を丁寧に見る「親子の居場所づくり」を行う事業です。0歳児の心と体の発達に特化した視点で、専門職と地域の支援者がさまざまな視点から子どもに寄り、地域にネットワークを形成するため、「親子に寄り添いながら、支援者もいっしょに乳幼児の発達支援を学ぶ居場所づくり」と「子育て支援にかかわる専門職・支援者向けスキルアップ研修およびネットワーク会議」を行います。

【アドバイザー・講師】
助産師：村口裕美、保健師：藤澤由紀、作業療法士：安藤和代子(ピアサポート団体代表)、ほか
司 会：野村純子(身体機能支援)、山口博子(栄養支援)、玉野明子(フシリレーショングラフィック)ほか

| 主催 | 一般社団法人チカク | 後援 | 岡山県教育委員会 岡山市 早島町 倉敷市

9～12月

| 会場 | **いかしの舎** (岡山県倉敷市早島町早島1466)

9月	10月	11月	12月	午前 (10時～12時)	午後 (12時～15時)
26 (土)	24 (土)	21 (土)	13 (土)	0歳さんの日	ぱれっとひろば
19 (土)	18 (土)	29 (土)	12 (土)	赤ちゃんとおぼろ	
	25 (土)	22 (土)		アラ40ママのひろば	
20 (土)	17 (土)	28 (土)		子リスのひろば	

ママぱれっと
ママと赤ちゃんの居場所

申込不要 **ぱれっとひろば** 12時～15時
◆ 開催日程の12時～15時に毎回開催

子育てに疲れてしまったり、お子さんと一緒に遊びに来てください。自由にお話したり、遊んだり。12時～13時は、一緒にランチもOK！
※専門職の先生との個別相談(有料)をご希望の場合は、事前にご相談ください。

対 象：0～3歳児まで / プレママ可

いつでもOK!

子育てに疲れてしまったり、お子さんと一緒に遊びに来てください。自由にお話したり、遊んだり。12時～13時は、一緒にランチもOK！
※専門職の先生との個別相談(有料)をご希望の場合は、事前にご相談ください。

対 象：0～3歳児まで / プレママ可

0歳さんの日

赤ちゃんとの暮らし、離乳食、排泄、睡眠など、なんでも、ベテラン助産師さんに聞いてみよう。さまざまな月齢の子と遊んだり、お話ししたり。お話しが苦手でもスタッフがサポートするから大丈夫。赤ちゃんのママにおすすです。

対 象：0歳児 / 定員12組程度 **要申込**
助産師：村口裕美先生

赤ちゃんとおぼろ

日々の遊びは赤ちゃんの発達にとっても大切。でも、赤ちゃんとの遊び方がわからなくて困っているママも多いです。乳幼児の発達に詳しい作業療法士・引野先生に、おうちでできる遊びのアイデアを学びましょう！

対 象：0～1歳児まで / 定員10組程度 **要申込**
作業療法士：引野望純先生

アラ40ママのひろば

日ごろ思えない悩みも同年代なら言えるし、気持ちもわかると思います。40歳前後で出産・子育てをしているママとお子さん限定のひろばです。ぐらんぽと村口先生との相談も。

対 象：0～3歳児まで / 定員12組程度 **要申込**
助産師：村口裕美先生 ★プレママ可

子リスのひろば

お友だちと仲良くできなかったり、言うことを聞かなくて叱ってしまったり、後悔することってありませんか？ お子さんの心のかかり方を、作業療法士の引野先生と考えてみましょう！

対 象：2～3歳児まで / 定員8組程度 **要申込**
作業療法士：引野望純先生

参加方法 午後の「ぱれっとひろば」は、申込不要。いつでもOKです。自由にご参加ください。午前の「0歳さんの日」「赤ちゃんとおぼろ」「アラ40ママ」「子リスのひろば」は、定員があり、人数の把握とお子さんの月齢の確認のため、事前に右の①～⑥の内容を、電話かEmailでお知らせください。定員になり次第、受付を締め切ります。

TEL: 070-5050-7730 ちゃやっひろば(平日9:30～15:00)
Email: ekinotikaku@gmail.com

参加無料 ※初回のみ登録料500円が必要です。

| 主 催 | 一般社団法人チカク

| お願い | 南門の前の駐車場は台数に限りがあります。振り合わせるか、徒歩・自転車でお越しください。

「フチはれっ」とで保育士と遊ぶ子どもたち

す。ほかに、幼児の防災教育やチボリで人気を集めていたミュージカル「ハンスの冒険」の復活上演を行うなど多様な活動を展開。18年には保育士や助産師らが0歳児の発達や母親の不安解消を図るなど親子をサポートする「ママばれっ」とも始め、年間30日で延べ1027人が利用した。

「大切にしてきたのは、外からのアイデアを受け入れる姿勢。ニーズに応えようと最善を尽くしてきた」と赤木さん。「誰でも『いいらしい』と受け入れるのはチボリと同じ。今後もこれまでの取り組みを丁寧に広げていきたい」と意欲を見せる。

24 |

[illegible]